

いっしょに本読も!

家読(うちどく) おすすめリスト



砺波市の小・中学校で

子どもたちのそばで読書を見守る

学校図書館司書が選んだ

今、家族で読むおすすめの本

をご紹介します。

発行：砺波市教育委員会

発行日：2011. 3. 10

編集：砺波市立図書館

子どもたちに大人気の絵本たち



バムとケロのもりのこや

島田ゆか / 作・絵
文溪堂 / 刊 2011年 ¥1,575

木曜日、森にきいちごつみにいったバムとケロ。ふたりは、だれもすんでいない古い小屋を見つけました。大工のソレちゃんに手伝ってもらって、掃除や修理をすると…バムケロファン待望の最新作です。たくさんのかくし絵を探すのも楽しい1冊。



1 (ひと) つぶのおこめ
(さんすうのむかしばなし)

デミ / 作
さくまゆみこ / 訳
光村教育図書 / 刊 2009年 ¥1,995

お米をひとりじめにした王様にかしいむすめラーニがひろったお米をとどけました。ごほうびは1つぶのおこめ。きょうは1つぶ、あしたは2つぶ、あさっては4つぶ、30日目はなんつぶになる？インドのさんすうのむかしばなしです。



びゅんびゅんごまがまわったら

宮川ひろ / 作
林明子 / 絵
童心社 / 刊 1982年 ¥1,365

あそびばにカギをかけられたこうすけたちは、友だちといろいろそうだんして校長先生に何とかカギを開けてもらおうとがんばるが…どうなるのだろうか？本を読んでから家族の人と作ってあそべるかもね。



おたすけこびと

なかがわちひろ / 文
コヨセ・ジュンジ / 絵
徳間書店 / 刊 2007年 ¥1,575

たくさんの小人たちが、ショベルカーやミキサー車、ヘリコプターを使って作ったものは…。

車好きな男の子はもちろん、小人たちひとりひとりのかわいいしぐさを親子でじっくりみてほしい絵本です。

いっしょにドキドキわくわく



角野栄子のちいさなどうわたち 1~6

(C)角野栄子/作(C)佐々木洋子/ほか絵
ポプラ社刊 2007年 ¥1,050

小さいとき、くつが小さくなったと言われるたび、「なんでわたしのくつだけ小さくなるの」と不思議でした。この本はそのころのように現実とお話の世界を自由に行き来させてくれます。


合言葉はオパオパ マジコ オパ マジコ！



せかいいちの名探偵
(ミルキー杉山の名探偵シリーズ)

杉山亮/作 中川大輔/絵
偕成社/刊 2010年 ¥1,050


家族の人といっしょに楽しみながら謎をとき、名探偵より先に犯人を見つけよう！「事件編」と「解答編」に分かれているので、一つ一つの手がかりをチェックしてキミも名探偵のなかまになろう。この本には3つのお話が入っているよ。



お洋服リフォーム支店
(なんでも魔女商会 1)

あんびるやすこ/作・絵
岩崎書店/刊 2003年 ¥1,155


ある森の中で、ほんとうに用があるときだけ見つけられるふしぎで、すてきな店をみつけた女の子ナナ。小さなねずみのお客さんがトントントンとドアをノックしているよ。いったいどんなお話がはじまるのでしょうか。(シリーズ16冊)



こびとづかん

なばたとしたか/さく
長崎出版/刊 2006年 ¥1,575


一度見たら忘れられないインパクトのある絵。最近笑っていないな、と思ったときにも効き目あり。きっと肩の力を抜いてくれることでしょう。あなたの周りにもコビトはいるかもしれません。もしかしたら、それは新種かも！?



大きな運転席図鑑
きょうからぼくは運転手

元浦年康/写真
学研教育出版/刊 2010年 ¥1,680


新幹線、電車、バス、はしご車、ショベルカー、船、飛行機、スペースシャトルなど、いろいろな乗り物の運転席の大きな写真がのっています。運転や操縦のひみつ、道具、持ち物、なども紹介されています。



プチ・ニコラもうすぐ新学期
(かえてきたプチ・ニコラ1)

ルネ・ゴジニ/作
ジャン・ジャック・サンペ/絵
小野萬吉/訳
偕成社/刊 2006年 ¥1,260


フランスの新聞に連載され、年齢を問わず幅広く人気のあった「プチ・ニコラ」シリーズの続編です。大人は子どもの頃を思い出しながら、子どもはニコラに共感しながら読むことのできる作品です。小学校中学年の男の子やその保護者の方へ。(全5冊)



引き出しの中の家

(C)朽木祥/作 (C)金子恵/絵
ポプラ社/刊 2010年 ¥1,470

七重はおもちゃ箱の引き出しの中に、お気に入りのウサギの人形のための小さな家を作りました。そこへやってきたのは、小さな小さなお客さまでした。花明かりとよばれるこびとと、世代を超えた少女たちのすてきなふれあいの物語です。



しずかな日々

椰月美智子/著
講談社/刊 2006年 ¥1,470

ある男の子の成長を描いた作品。気弱だった少年が、おじいさんとの生活を通してたくましく大人になっていく姿にとても感動します。

2010年に同じ講談社から文庫本も出版されました。

物語の世界へ

ふしぎなオルガン



ふしぎなオルガン
(岩波少年文庫)

リヒャルト・レアンダー／作
国松孝二／訳
岩波書店／刊 2010年(改版) ¥735

20編が収められている創作童話集。訳者のあとがきには、その質においてアンデルセンの童話と比べてひけをとるものではないと書かれているように、読んだものがのちのちまで心に残る印象を与えてくれます。



海賊ジョリーの冒険1 死霊の売人

カイ・マイヤー／著
遠山明子／訳 佐竹美保／絵
あすなろ書房／刊 2005年 ¥1,785

カリブ海の上を駆けることができる不思議な能力を持った少女ジョリーにはほかにも秘められた力があるようで、いろんな勢力がジョリーを狙っています。死霊の売人は敵なのか、味方なのか…。
(シリーズ全3巻)



重松 清 (はじめての文学)

重松 清／著
文藝春秋／刊 2007年 ¥1,300

身近な話、8話を収録した作者自選短編小説集。文学の入り口に立つ若い読者には、短編集は読みやすく、特にお薦めします。
若き日の読書ほど影響力が強いものはありません。一編一編が忘れられないものになるはずです。



風が強く吹いている
(新潮文庫)

三浦しをん／著
新潮社／刊 2009年 ¥860

お正月の風物詩でもある箱根駅伝。そこに無謀にもたった10人で挑もうとする連中がいた。奇跡のような出会いから集まった10人が、それぞれの頂点をめざして走る(=生きる)超ストレートな青春小説。「好きなら走れ!」。以上。

生き物バンザイ!

としょかんライオン



としょかんライオン

ミシェル・ヌードセン／作
ケビン・ホークス／絵
福本友美子／訳
岩崎書店／刊 2007年 ¥1,680

「としょかにライオン?」およそ結びつきそうもないこの2つが並んだタイトルにひかれ、書店に置かれた本を手にとった。それが最初の出逢いでした。大切なことをさりげなく伝えてくれて、読む度あったかい気持ちになれるこの本が大好きです。



カモシカととしょかん

魚瀬ゆう子／文
水上悦子／絵
桂書房／刊 2009年 ¥1,365

2008年の夏、舟橋村立図書館で実際にあった出来事をもとにしてつくられた絵本。日本でいちばん小さな村で起こった珍事件は、当時全国ネットでテレビや新聞で取り上げられました。巻末には実際の写真や、心温まるエピソードが添えられています。



犬部! 北里大学獣医学部

(C)片野ゆか／著
ポプラ社／刊 2010年 ¥1,470

行き場を失った犬や猫を救うため奔走する現役獣医学部生たち。実在する大学のサークル活動取材した、笑い涙のノンフィクション。「保護した動物は絶対に幸せにする!」そんなメンバーの熱い想いと苦悩の日々がつづられています。




サケと「浅井っ子」のふるさと物語

池田まき子／著
汐文社／刊 2009年 ¥1,470


旧大門町浅井小学校の子ども達がサケの飼育を通して成長する姿を描く。放流から4年後に庄川へ戻ってきた顔の変なサケが「かおなし」かどうか確かめるすべはありませんが、たくましく成長して故郷の川へ戻ってきたと信じてやみません。

世代を超えて



くじけないで
柴田トヨ 著
飛鳥新社／刊 2010年 ¥1,000


90歳を過ぎて詩を書き始めた柴田トヨさんの、初の処女作品詩集。98歳の今もなお、みずみずしい感性でつづられた言葉は、素直に心に響いてきます。いつも手元に置いて、繰り返し読んでみたくなる本。



働きだして見つけた夢
日本ドリームプロジェクト／編
いろは出版／刊 2009年 ¥1,260


夢に終わりはない。何歳になっても、社会に出て働いていようと、また新しい夢は始まって行く。どうせなら笑って働きたい。

社会人1年目から46年目まで、働く22人の今までとこれからの夢が集まっています。




おおきな木
シェル・シルヴァスタイン／作
村上春樹／訳
あすなろ書房／刊 2010年 ¥1,260

世界中で読まれてきたこの本は、日本で昨年、村上春樹の訳により新たに出版されました。短いお話ですが、読者にその時の自分に合った様々な感情を与えてくれます。何度も読み返す価値のある1冊です。




池上彰の学べるニュース 1〜3
池上彰・「そうだったのか！池上彰の学べるニュース」スタッフ／著
海竜社／刊 2010年 各¥1,100

ご存知池上彰の解説。家族で読むのにおすすめ！テレビを見ていてよく分からなかったことも、文字を読むことでスッキリすることがあるかも。そして、最新ニュースの内容を家族で共有してみたいかがでしょう。




自由って、なに？
(こども哲学シリーズ)
オスカー・ブルニフィエ／文
西宮かおり／訳 重松清／監修
朝日出版社／刊 2007年 ¥1,470

絵本のように読みやすく、1つの問いにいくつも答えが出され、そこからまた問いが引き出されていきます。答えを無理に出そうとしなくても、問いかけを続けていくといろんな考え方があることに気づかされる本です。




言葉はなぜ生まれたのか
岡ノ谷一夫／著
石森愛彦／絵
文藝春秋／刊 2010年 ¥1,500

ひらがなや漢字の成り立ちについては勉強するけれど、そもそも「言葉」ってどうやってできたのでしょうか。わかりやすい文章と、色あざやかなイラストがたくさんあり、子どもから大人まで楽しめます。



大人になる前に身につけてほしいこと
坂東真理子／著
PHP研究所／刊 2008年 ¥1,000

人としてどうありたいか、どうなっていきたいか…そんな生き方・考え方を教えてくれる本です。若いうちに身につけておいたほうがよい、いい知恵がたくさん書かれています。



フェルメールの楽器 音楽の新しい聴き方
梅津時比古／著
毎日新聞社／刊 2009年 ¥2,100

著者の名と、フェルメールの名にひかれて手に取った本。一絵画に宿る音楽を聴き、音の彼方へのイメージを探る、奏でる…フェルメール絵画より音のイメージをふくらませ、一気に読んだ1冊です。